



大津市立和邇小学校

活動テーマ

和邇川の生き物を観察しよう！

実践事例について

夏休みの子どものたちの生活を豊かなものにして、体験活動を中心に「わにっこ広場」を毎年企画・運営されている和邇学区社会福祉協議会の皆様と協働で、和邇川に親子で出向き、生き物(魚だけではなく、水生生物や昆虫)を捕獲し、河川敷に作るその場水族館で捕獲した生き物を種類別に展示し、生き物を観察する。

1 活動の趣旨

(1) 夏休みの居場所確保

40日あまりの夏休みに、これまでは飼育当番、水泳教室、水やり当番などがあり、学校に来て活動する機会が少なからずあったが、今日の熱中症対策や働き方改革の影響で、児童の夏休み中の活動が少ない現状がある。和邇学区社会福祉協議会では、子どもたちの居場所づくりとして、毎年「わにっこ広場」を開催され、クラフト教室、スポーツで遊ぼう教室、宿題をやりましょう教室など、多彩な方法で夏休みの子どもたちの体験活動を支援されてきた。今回は、校区内を流れる「和邇川の生き物を観察しよう」というテーマで“みんなで水族館”を学校と協働で開催した。

(2) 環境教育との関連

和邇小学校では、これまでから4年生で和邇公園(和邇川河川敷)の四季の観察、5年生で和邇川の上流・中流・下流の生き物調べ、6年生で和邇川の歴史と災害について学習している。今回の親子での体験活動は、和邇小学校での環境教育に興味を持つきっかけとなっている。

2 活動計画

6月に和邇学区社会福祉協議会と、今回の企画について検討した。実施日の決定、実施内容(プログラム)スタッフの確保、準備物などについて調整した。

7月にチラシを制作・配布した。参加予定者を50名募集することとなった。

8月15日、実施日の天候やこれまでの雨量、熱中症の危険について確認した

8月17日、当日を迎えた。

9月に今回実施の反省会を行い、次年度(令和8年度)も実施する方向を決定した。

3 活動の準備

(1) スタッフの確保

当日を安全に楽しいものにするためには、スタッフの確保が必須である。和邇学区社会福祉協議会では、地域ボランティアのメンバーが多く、あらゆる活動にボランティアとして積極的に活動してくださる方々が大勢おられる。民生委員・児童委員協議会のメンバーも加わり、1グループ児童5名に対して2人のスタッフが確保でき、20名を超えるスタッフが終結された。

(2) 捕獲できた生き物を展示する方法

軽トラックを2台並べ、荷台を展示スペースに8個の水槽を置き、種類ごとに展示した。水槽は学校で用意し、軽トラックは地域で用意した。水槽のエアーレーションが必須であることから、支援物品で購入してもらった。水槽の温度(川の水は冷たい)は、スタッフがペットボトルに水を入れ、凍らして持参した。

(3) 魚に詳しい講師の選定

捕獲した生き物を種類ごとに分け、子どもたちに名前や性質を伝える講師を、県にお願いしたところ、県の琵琶湖環境部より、講師を派遣してもらうことができた。

(4) ライフジャケットの確保

水辺での活動に欠かせないのがライフジャケットの着用である。参加者には、各自家にあるものを持ってくる他、学校で以前購入したライフジャケットを貸し出した。水位が高なくても(水がなくても)ライフジャケットの着用は必要で、琵琶湖のある滋賀県の子どもたちに、ライフジャケットの着用の必要性を伝える機会として有効であった。今後とも、水辺での活動時にライフジャケットを着用し、自分の命を自分で守る意識を高めていきたい。

活動テーマに関連する MLGs のゴール



4 活動の実際

開催当日は天候にも恵まれ、熱中症に注意しながら、安全な実施に心掛けた。



予定より多くの参加者があり、小グループに分かれ、スタッフの見守りの中、生き物を捕獲した。がさがさを中心に採り方を講師から教わり、低学年の子どもたちも元気に活動に参加した。



投網の使い方を教わり、投網にも挑戦した。水族館になるように、多くの種類の生き物が捕れるようみんなで協力した。



捕獲した生き物を種類別に水槽に移し、水温管理、酸素管理をして、その場水族館を作った。多くの生き物を捕獲することができた。

5 参加した子どもたちの感想

・いつも和邇公園には来ているけれど、和邇川には危険なので入っていない。魚がたくさんいるといいなと思っていたが、なかなか捕まえることができなかった。小さな魚を1匹捕まえたときは嬉しかった・

・講師の先生から、魚の採り方を教えてもらったから、全部で5匹も捕まえることができた。水生昆虫もたくさんいて、名前をまったくしなかったけれど、今回教えてもらって勉強になった。

・参加する前から、この日を楽しみにしていた。お父さんと一緒に参加できて嬉しかった。来年も参加したい。

・名前の知らない魚がいて、名前を知ることができた。夏休みに川に入ることができてラッキーだった。

・投網をはじめて知った。投げ方がとても難しかった。でも練習したら、なんとかできた。魚取り網では、魚がすぐに逃げてしまうので、投網はすごいなあと思った。またやってみたい。



6 おわりに

今回の報告は、地域のボランティアの皆様にご協力を得て、和邇学区社会福祉協議会の皆様とも協働で実施することができた。活動を通して、子どもたちは、身近な和邇川に興味を持ち、もっと知りたい、やってみようという気持ちを持った。地域ボランティアの皆様との交流が、地域への愛着を育み、多くの地域行事に積極的に参加する児童が増えたように思う。

河川敷にゴミが落ちている場面では、「川をきれいにしないと魚が死んでしまう」という意見を知り、小さい頃から環境問題に関心を持つ子どもに育てている。川をきれいにすることで、琵琶湖の環境が守られ、生態系を維持することにつながる、そういった視点を大切にしながら、継続的な活動につなげたい。

学校名	滋賀県立和邇小学校
住所	大津市和邇中190番地
電話番号	077-594-0012
E-mail	wani@otsu.ed.jp